

まちの話題

チアダンス米国大会優勝

しいむらかりん
椎村佳凜さん (9歳)



仕事は、踊りの指導や練習の予定を組むことです。『チーム力』をつけるため、メンバーの気持ちを一つにすることに気を配りました」

チーム力で勝つ

ジャムフェス米国大会は、世界各地の予選を勝ち抜いたチームが出場する、米国最大級のダンスイベントです。予選を含めると、出場したのはなんと約7千チームにも上ります。

スターミセルは、昨年10月の京都予選で1位になり、米国大会への切符を手に入れました。

「米国大会出場までは本当に苦しかったです。朝は6時に起床してランニング、下校後は練習会場が閉館時間になるまで練習しました」

舞台上立って、みんなから注目されるのがうれしいという椎村さんですが、なんといっても世界大会。本番直前は、緊張して頭が真っ白になったと語ります。

「上手くできるか不安になりました。でも、応援席の日本の皆さんが声援を送ってくれていて、『よっ、やんちゃ』という気持ちになったんです」

演技は約3分。先生からの「最後は、チーム力のあるチームが勝つ」という言葉を胸に、みんなで力を合わせ

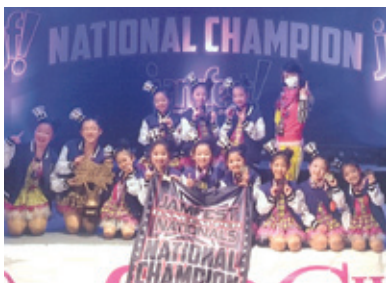
て全ての力を出し切りました。結果は「ユース エニィ スタイル スモール」部門で優勝。椎村さんは「頑張つてよかったです。5歳から始めたチア。これまでで一番うれしい」と喜びを見せました。

どんなダンスでもできる子に

椎村さんは今後について「継続することが大事だと思うので、チアはずっと続けます」と話します。

「ヒップホップなど、ほかのジャンルにも挑戦して、賞をたくさん取りたい。どんなダンスでもできる子になりたいんです」

チアの魅力を「踊ってる人も、見る人も楽しくて笑顔になる」と話す椎村さん。インタビュウ中も、ずっと可愛らしいスマイルを見せてくれたのが印象的でした。



▲スターミセル
(下段中央が椎村さん)

最年少でリーダー

音貝小学校4年生の椎村さんは、チアダンスクラブ「スターチア」に通っています。クラブは約300人が所属する大所帯で、大会に出場できるのはオーディションを勝ち抜いたほんのひと握りです。

口頃から自主練習を重ねた椎村さんは、選抜チーム「スターミセル」のメンバーに選ばれ、またチーム内では道具を使って踊る部隊のリーダーを任されました。

「部隊最年少なので、リーダーになったのは驚きでした。リーダーの主な

そだ 育っています! No.401

おしゃべりと踊りが大好きなひなちゃんは、まるで太陽のようにパパとママに毎日元気をくれるね。パパが会社に行くときは行かないでとギョッとしてくれて、帰ってくるとパーパー!と大きな声をあげながらギョッとしてくれる、そんなひなちゃんにパパはメロメロだよ。



ひなの
陽奈望ちゃん(1歳)

本田 拓夢さん・雅子さんの長女
(清水)